

平成 27 年度 大垣市障がい者の暮らしを支える協議会 各部会の開催報告
(地域移行支援部会・暮らし支援部会、就労支援部会、相談支援部会)

■地域移行支援部会・暮らし支援部会

◆開催日時

【第 2 回】平成 28 年 2 月 24 日（水） 10：00～11：30

◆メンバー 26 人

せせらぎ、グリーンヒル、大垣市柿の木荘、大垣市障がい者生活支援センター、けあ・わーくす大垣、ジーバケアサービス、みるきいうえい、心牧園マーセリン、大垣市立ひまわり学園、西濃病院、大垣病院、不破ノ関病院、西濃保健所、大垣警察署、民生委員、市社会福祉課事務局

※アドバイザー／愛知県立大学 宇都宮みのり教授

◆テーマ

「地域で生活する精神障がい者への地域定着に向けた支援体制について」

◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・精神不安定からくる問題行動の見られるケースについて、相談支援専門員より事例を紹介してもらい、グループに分かれて事例検討を行った。
- ・事例検討の前に、アドバイザーとして招いた愛知県立大学教育福祉学部の宇都宮教授よりケースワークの考え方について、本人の抱える課題を具体的に解決するために 5 つの項目（問題が生じる背景、ストレングス（強み）を見出す、支援目標を立てる、役割分担、評価）について意識して話し合うことを提案され、今回は「問題が生じる背景」と「ストレングス（強み）」までを検討した。
- ・各グループで、エコマップ（本人を支援する社会資源を図式化したもの）を作成することで、本人が持っている社会資源やストレングスを多角的な視点から見つけることができた。
- ・支援につなげる方法として、本人にとってのメリットを伝えること。本人が困っている、本人が解決したい課題があるときに「あなたのこの困りごとに対して、この支援にはこういうメリットがある」という、本人を主体にした話し方が安定や安心を伝えることになる。
- ・ケースについて相談員一人が抱え込んで疲弊してしまわないよう、支援者で情報共有し、一緒に解決策を見出していくことが重要。
- ・平成 28 年度以降もアドバイザーを招いて事例検討のあり方を学ぶとともに、障がい者の問題解決のための支援について話し合う場を設定していく。

■就労支援部会

◆開催日時

【第2回】平成28年2月23日（火） 10：00～11：30

◆メンバー 28人


いぶき作業所、工房さんぼみち、ぐりんぴーす、大垣市立かわなみ作業所、ウェルテクノスジョブトレーニングセンター、ハーモニー大垣、ぐっどらんど、ワークステーション大垣、合同会社マハナ、GCC大垣校、新家大垣、一般社団法人障害者福祉支援センター、Notoカレッジ、事業所SORA、シュシュ、あやめ、株式会社クローバーネットワーク、NPO法人バーチャルメディア工房ぎふ、大垣市障害者団体連絡協議会、大垣公共職業安定所、大垣市障がい者就労支援センター、揖斐特別支援学校、市社会福祉課事務局


◆テーマ

- 「事業所紹介シート（案）の内容について」
- 「連携における大垣市の課題について」
- 「今後の部会の方向性について」

◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・どの事業所がどのような作業を行っているのか、どの程度の障がいの利用者まで受け入れ可能なのかといったところを誰もが簡単に見ることができる「事業所紹介シート（案）」の内容について協議した。
- ・項目の追加（職場実習の受け入れの有無や受け入れ可能人数など）や地図を掲載する、具体的な作業風景の写真を掲載するなどの意見を基に、事務局でシートを修正。各事業所で必要事項を記載し、大垣市就労支援センターホームページでの公開などにより運用していく。
- ・他の事業所や支援機関が連携して一般就労を目指していくうえでの課題として、事業所同士の関係性がある。
- ・自分の事業所では提供できないサービスであっても、他事業所と連携することで幅広いサービスを提供できるため、普段から、計画相談支援事業所や就労支援事業所、学校との顔の見える関係づくりが重要。
- ・今後の部会では、成功事例以外の事例検討が必要であるため、困難事例の検討や他事業所や企業との交流を通じて指導員や支援員のスキルアップを図りたい。
- ・就労支援では、生活面の支援や管理も重要なテーマである。

| 事業所紹介シート | | | | 平成28年5月25日 |
|------------|---|------------|------------|------------|
| フリガナ | | | | |
| 事業所名 | NPO法人 いぶき会 いぶき作業所 | | | |
| 事業形態 | 就労継続支援B型 | | | |
| 対象障がい | 身体障がい・知的障がい・精神障がい | | | |
| 所在地 | 〒503-0022 岐阜県大垣市中野町5丁目131番地1 | | | |
| アクセス | <div> <div> ・JR大垣駅より徒歩20分 ・近鉄バス「中川」より徒歩10分 </div>  </div> | | | |
| 電話 | (0584) 74-8980 | | | |
| ファクス | 同上 | | | |
| e-mail | ibuki-ogaki@shore.ocn.ne.jp | | | |
| ホームページURL | | | | |
| 定員 | 20名 | | | |
| 障がい別の受入れ状況 | 主に精神障がいの方 | | | |
| 作業日・時間 | 月曜日～金曜日 (休日：土日、祝日、年末年始) 9：00～15：00 | 休憩時間 | 1時間に10分の休憩 | |
| 作業内容 | ・プラスチック製品の組み付け、検査、仕上げ ・ダイレクトメールの封筒入れ、糊付け ・各製品の袋入れ ・段ボール箱の糊付け、シール貼 ・ポスティング 他 | | | |
| バリアフリー対応状況 | ・玄関入ロスロースプ有リ ・車いす、トイレ、作業所内すべてに対応 | | | |
| 送迎の有無 | 無し | 職場実習の受入れ可否 | 可 | |
| 施設外就労の有無 | 無し | 平均工賃 | 3,487円/月 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 受入れ可能な利用者の状況と人数 (更新日現在) | ・医師の承諾を得た人 ・家族の承諾と協力が得られる人 ・受入可能人数 5名～7名 |
| 就労実績 | ・就労継続支援A型 6名 ・一般就労(障害者枠) 2名 |
| | ・ネクステージ ・SORA ・日吉の森 ・マハナ大垣 ・大垣市クリーンセンター |
| PRポイント | 作業時間は自分で決めます。就労への第一歩となるよう、軽作業をおして加や就労支援を行うところ です。 ・利用される方の、一人ひとりのペースを大切にしています。 ・生活リズムを整えたい方が、日中過ごせる場所を提供しています。 |
| 関連事業所の事業形態事業所名 | 無し |
| 見学の申込み方法 | 電話連絡 |
| 作業風景など (写真) |  |

■相談支援部会

◆開催日時

【第2回】平成28年3月24日（木） 13：30～15：00

◆メンバー 20人

大垣市柿の木荘、せせらぎ、大垣市社会福祉協議会障がい者相談支援事業所、グリーンヒル、ゆう、ジーバケアサービス、心牧園マーセリン、障害者生活支援センタープラス、みるきいうえい、ワークステーション大垣、大垣市立ひまわり学園、グリーン相談支援事業所、市社会福祉課事務局

※講師／一宮市障害者相談支援センターゆんたく 野崎貴詞

◆テーマ

「アセスメントのポイント～利用者の理解をより深めるために～」

◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・「アセスメントのポイント」をテーマに、一宮市障害者相談支援センターゆんたくから講師を招き、アセスメントを深めるための様々な手法、視点などについて、事例を取り入れながら説明を受けた。
- ・アセスメントは利用者が何に困っているのか、何を求めているのかを正しく知り、それが生活全般の中のどんな状況から生じているかを確認すること。援助活動を行う前に行われる評価であり、後のサービス提供につなげていくための重要な業務である。
- ・当面の目標を達成するために「そのためにはどうするか」という視点で取り組むべきことを掘り下げていく。
- ・視点を切り替えることで、困難な状況の中にも課題解決の活路を見出したり、欠点の中にストレングス（強み）を発見できることもある。
- ・相談支援は“ズレ”を本流に戻す過程であり、ズレの核心を見定めるためには、アセスメントを100字要約するとよい。
- ・第1回部会での提案事項であった障害福祉サービス兼通所受給者証の発行方法と受給者証の写しの提供方法について事務局から説明を行った。